エル ジー ビー ティー GBT〜自分らしく生きる〜

北九州市で実際にあった出来事をもとに構成したお話です。 今日は、LGBT・性的マイノリティをテーマにお話しします。

「女性として、自然なことでしょう。体が大人の女性になってきたのよ。」「どきらしよう…。 自分の胸が、 大きくなってしまう…。」 「そんなの絶対いやだ…。」

楽しみにしていたはずの修学旅行に行きたくないと、泣きながら言いいつもは明るく元気な彼女が、思いつめた表情をしていました。さらに、小学校の保健室で、先生に打ち明けたのは、六年生女子のA子さん。

「一緒にお風呂、入りたくない。女湯なんか…。」 「どうして行きたくないの?(クラスのみんなで行くんだよ。」

次の日、お母さんが、眼を真っ赤にして、学校を訪ねて来ました。そうです。女子トイレを使うことも、いやで仕方なかったと言います。 聞けば、これまでずっと女子の更衣室で着替えることが苦痛だった

「うちの子、どうなるんですか?私たち、どうすればいいんでしょう。」

お母さんは、大きなため息をついて言いました。

| 来年は中学です。おばあちゃんが、孫のセーラー服姿を楽しみにし ています。何て伝えれば…。

そして、トランスジェンダー・性同一性障害だろうと診断されました。 相談を重ね、A子さんは、医療の関を受診することになりました。

> 男女共同の多目的トイレを使うことになりました。修学旅行は別室のたみでいる。というではいるでは、学校はすぐに動きました。体育などの着替えは保健室で、トイレは、学校はすぐに動きました。体育などの着替えは保健室で、トイレは 部屋風呂に入りました。

何度も話し合い、進学の準備に力を注ぎました。 さんが中学校でも学校生活を送りやすいよう、家族と学校が何度も 家族も、A子さんの気持ちと真剣に向き合いました。そして、A子

それから四年の月日が流れました。

先生

バスを待つ先生に、一人の少年が声をかけてきました。

「A子…さん?」

うです。そして、キラキラした笑顔で言いました。 少年だと思ったのは、A子さんでした。制服のない高校に進学したそ

「学校? すごく楽しいよ。」

社会づくりを進めていきたいですね。 すべての人が暮らしやすい、そして自分らしく生きることができる いかがでしたか。高校に進学し、笑顔で話しかけてきたA子さん。

では、また。

同性などの、性的少数派の人々のこと。■性的マイノリティ…からだの性とこころの性が違う、恋愛の対象が「・こころの性とからだの性との不一致(Transgender:トランスジェンダー)